

大阪市立鯨江東小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】	
① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を昨年度より増加させる。 <ul style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがある。 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきてている。 きまりや約束事を守っている。 あいさつをしている。 	(カリキュラム改革関連) B
② 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を昨年度より増加させる。	(マネジメント改革関連)
③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を 75 %以上にする。	(カリキュラム改革関連)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【規範意識の確立】 各月の生活目標を、児童に周知するために児童朝会で毎月曜日に講話するとともに、学期に 1 回生活強調週間を実施し、児童会でも取り組みを行う。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ○生活強調週間を年 3 回実施し、チェックカードの結果を分析活用する。 ○児童会が関わる取り組みを学期に 1 回実施する。	
取組内容②【道徳教育の推進】 児童会を中心にあいさつ運動を実施し、自ら進んで元気なあいさつができるよう指導する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ○強調週間を年 2 回実施する。 ○アンケートやチェックカードにより児童の実態を把握して、次の指導に生かす。	
取組内容③【人権教育】 人や自然との多様なふれあいを通して、自尊感情や思いやりの心を培う。 (カリキュラム改革関連)	
指標 次のような行事や活動を実施し、児童の活動の様子の観察や事後の活動・作文等により心の育ちを把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・異学年や地域の方と交流する場を設ける。（各学年、年間計画に合わせて実施） ・自然や環境について考える機会を設ける。（各学年 1 回以上実施） ・質の高い文化（音楽・絵画・芸術等）にふれる機会を設ける。（各学年 1 回以上実施） 	B

取組内容④【防災教育の推進】

年間計画に基づいて、災害時に備えた訓練を継続して実施する。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)

A

指標 通常の訓練を年3回、地域と連携した訓練を年1回実施する。

取組内容⑤【安全教育の推進】

PTA・地域との連携により、登下校の安全を確保するとともに、行内での安全な生活への意識を高める。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)

A

指標 ○次の2点でPTA・地域との連携を図る。

- ・定期的に行われている連携の継続
- ・懸案事項等が発生した時のスムーズな連携

○意識付けを図る強調週間の実施（生活強調週間を年3回実施する。）

○意識調査（生活強調週間のチェックカードで安全意識の高まりを把握する。）

年度目標の進捗状況や経過達成状況の結果と分析

取組内容①【規範意識の確立】

生活目標を周知することや、生活強調習慣を年3回実施することで、児童の規範意識は高まってきた。各クラスで点検表をチェックするとともに児童会が「見回り隊」を行ったり、クラブ活動でポスターを作成し、掲示したりするなど児童が積極的に取り組むようになった。生活強調週間のチェックカードでは、ルール（98%）・服装（96%）と多くの児童が「できている」と回答している。正しい歩行が最も少なく、平均値が88%で学年差も認められる。学校アンケートでも「できている」と回答する児童の割合は昨年度より増えている。

取組内容②【道徳教育の推進】

年2回の強調週間を実施した。強調週間中はチェックカードを活用することで意識が高まり、積極的にあいさつする児童が増えた。しかし、継続することが難しく、強調週間以外は進んで大きな声であいさつできる児童が少ない。

学校生活アンケートは、学校・地域の方の二つの観点で行っている。両項目とも肯定的な回答は90%を超えるが、「できている」と回答している児童は、学校が約57%、地域が約68%にとどまっている。

取組内容③【人権教育】

児童集会や行事の中で、たてわり班活動を積極的に取り入れ、互いの良さや違いを認め合えるような活動を実施した。昔遊び大会や城東園訪問、鮎江東音頭の指導などで地域の方と定期的に交流を行った。音楽鑑賞会では、質の高い文化に触れる機会を設けた。イネの収穫など自然や環境について考える機会を設けた。友だちのいいところ探しなど、各学年において取り組みは行っているが、高学年になるほど自尊心が低くなっていることが学校生活アンケート調査で見られた。

取組内容④【防災教育の推進】

年間計画に基づいて地域や関係機関と連携しながら実施しすることができた。地域と合同の防災訓練・体験活動は、本年度で3回目になり、スムーズに実施できるようになっている。学校生活アンケート「火事や地震のときに身を守る方法を知っていますか」の項目では昨年と同様に、約9割の児童が「知っている」「だいたい知っている」と回答し、防災意識の高さが表れている。

取組内容⑤【安全教育の推進】

PTA・地域との連携により、児童の登下校の安全は確保されている。また、通学路の工事や児童の安全にかかる懸案事項が数件あったが、いずれの場合もPTA・地域と連絡を密に取り、対応できた。

生活強調週間チェックカードでは、9割以上の児童が安全に登下校をしていると答えていることから、安全意識の高さが見られる。

来年度への改善点

- ① 児童の意識と実態が必ずしも一致していないところがあるので、引きつづき生活強調週間を設けたり、児童会やクラブ活動の取り組みを利用したりして普段から規範意識を高め、実践化が図れるようにするとともに指導を徹底する。また、機会をとらえて保護者への注意喚起を行っていく。
- ② ポスター掲示など常時意識づけにつながる取り組みが必要である。
- ③ 自尊感情をもちにくい児童の理解を深めていくことが課題である。
- ④ 訓練時には放送なども意識的に聞いて取り組んでいるが、普段の放送の合図があっても静かに聞けていないことが多いので、放送をしっかりと聞くよう継続的な指導が必要である。
- ⑤ 廊下・階段などの歩行の仕方について、引き続き、声掛けをしていく必要がある。